

タダゴトではない『タダコピー』

人気爆発中

創業者「取締役」は現役中大学生

商3・太田英基さん&商4・永澤雄さん

『Hakumonちゅうおう』05

年冬季号で紹介した、ビジネスコンテスト優勝者、太田英基さん(商3)

らが、そのとき受賞したプランで実際に会社を立ち上げた。会社名は「株式会社オーシャナイズ」。それが今ではテレビや新聞でも紹介されるようになった。

事業名は「タダコピー」。といえば、ああ、あれか、とけっこうご存知だろう。アレやっているのは中大学生？

ホントなの、というような話だ。文字通り、無料でコピーができるサービス。協賛企業を募りコピー用紙の裏にカラー広告を載せることで、

普通なら10円かかるコピーの紙を無料にしているというものだ。ことし

4月、慶応大学に専用コピー機を設置したところ大好評で、早稲田、東大などと設置する大学も拡大中だ。

会社を立ち上げたメンバーは3人。その中に、昨年のビジネスコンテストと一緒に参加した、永澤雄さん(商4)もいる。

二人はスーツで現れた。その日は平日の昼間。きょうも営業があるそう。取材の途中にも携帯電話がよく鳴った。

まずは名刺交換。よろしくお願ひします、と受け取った二人の名刺に

は「取締役」の文字。学生で会社を立ち上げてしまうのだから、入学時から「経営者になる」という高い意識をもっていたのだろうと思いきや、「僕は全然そんなことなかったですね」と永澤さん。いともあっさり言う。「ビジネスコンテストも、去年のときと、あと1回くらい出ただけです。大学1年の時は普通にバイトしてて、2年では、バイトして貯めたお金で夏にアメリカへ行きましたね。海外に行ったことなかったんです。意外と「フツー」の大学生だったんですね。

そして、2年生の夏、中大学生が経営するバー「SOUEEN」で太田さんと出会った。「SOUEEN」は7人から10人で経営しており、毎年入れ替わる。「僕らは同期だったんですよ」

逆に太田さんのほうは、早い時期から独立志向があった。「SOUEEN」に来たのは大学1年の夏。「大学に入って、4つのサークルをかけ



太田英基さん

持ちしてたんですけど、まあ、のりおくれて。それでどうしようかなあと思っていた時に、SOUEENの経営者募集のチラシを見つけて、すぐ電話したんです。そういえば、そんなチラシが8号館の机の上に配られていた気がする。でも、いざ電話をするのは勇気がいりますよね。「友だちに言われました。『お前、よくそんな怪しいのに電話したなあ』って。まあ、たしかにね(笑)」

ビジネスコンテストで優勝し、「株



永澤雄さん

株式会社オーシャナイズ」を立ち上げたのが、05年11月。今では、インターンシップも受け入れている。「あまりインターンシップという言い方はしたくないんです。企業体験というより、僕らの会社では、実際に僕たちと一緒にやってもらいたい」と思っているんです」と永澤さん言う。

声がいい。よく通る。何かスポーツをやっていたんですか？と聞くと

るんですけど、みんな男で、しかも男子校出身者が7人もいるんですよ。女の園ならぬ、男の城？「そろそろ、女性メンバーを入れないとヤバイです(笑)」

自分達とフィーリングが近い人と一緒に働きたいですね」と太田さん。現在4年の永澤さんは、単位も無事とれて、今は学校よりも会社のほうに力を入れているという。太田さ

ほとんどが上場企業だという。そもそも「中大バー」で出会った2つの個性は、さらに向こうへ、大きくウイングを広げて疾走中だ。(学生記者 猪瀬智巳 〓商学部4年)



新聞でも大きく報じられている

「僕の中では大学は卒業しています(笑)。やりたいうことは見つけたんで。僕の中で大学は、やりたいうことを見つけて、一生の友だちを見つけたところだと思っているんです」。永澤さんは「やりたいことはまだ模索中」と話した。タダで始めたような「タダコピ」がタダゴトではなくなつた。設置大学がふえるにつれ、協賛企業も11月時点で47社と順調な伸び。

「高校時代は野球をやっていました。(太田さんを指して) こいつはバレーで。だから、会社の雰囲気も、体育会系のノリになっちゃうんです。ぼくらの会社は今、従業員が9人い

新たに社員として加わりたいう。応募の電話もかかってくるという。「体育会系の自分たちのノリを嫌がらない方がいいです。誰でもウエルカムつてわけじゃないですけど、

んはまだ3年生。きょうもスーツで営業ということは、学校のほうは？「行ってません」。あまりキツパリと言われても困るのだけれど。単位は？と聞いたら、苦笑い。